

建築主：株式会社朝日新聞社 宍道 学
 株式会社竹中工務店 橋 明宏
 設計者：株式会社日建設計 吉田 聡
 株式会社竹中工務店 佐分利和宏
 施工者：株式会社竹中工務店 桑原貴士



内外観写真 [東出写真事務所 (1,2,3,5), ナカサアンドパートナーズ (4)]

建築概要

建設地：大阪市北区中之島三丁目
 建築主：株式会社朝日新聞社、株式会社竹中工務店
 設計：株式会社日建設計（構造・設備設計協力 竹中工務店）
 施工：株式会社竹中工務店
 建築面積：6,106.48㎡ 延床面積 151,146.45㎡
 階数：地上41階、地下4階、塔屋2階 高さ：195.67m
 構造種別：制振構造 S造 / SRC造 / RC造

選評

事務所、ホテル、店舗、美術館、ホールなどが縦方向に複合し一つの街を形成している超高層ビルである。低層部の大きな外壁面に集中的に制振部材（オイルダンパー）を配置し免震構造と同等の耐震性を確保している。東側の3層分の高さを有すピロティ部分では巨大な自立壁（Big Wall）により三層分の層間変形を利用した制振効率の高い架構としている。このBig Wallはビルの基礎としての視覚的な安定感をもたらしている。

使い勝手の良い無柱空間のオフィス部分は、さらに外周の細柱によってすぐれた眺望を得ている。また、ホテル内のらせん階段が箱型断面を用いた浮遊感にあふれるデザインであることなど構造と意匠の統合によって実現された見どころは多い。

隣中之島フェスティバルタワー（第15回作品賞）と同等の高い耐震性能と、同じく評判の良かった免震の採用を建築主より要望された…とのこと。しかし設計者は同等の安全・安心をまったく別の方法で示し、説得・実現した。その高い力量と真摯な態度、また中之島フェスティバルタワーと異なるソリューションを用いながら見事に息の合ったツインタワーのたたずまいを得ていることに対する賞賛が含まれた形での受賞である。

（井田 卓造）

制振化した経緯及び企画設計等

本建物は、中間層免震構造である中之島フェスティバルタワーに引き続いて建設されたツインタワープロジェクトの2期目となる建物である。建物用途はオフィス、ラグジュアリーホテル、文化交流施設等で、建築主からは1期目と同等の高い耐震性を確保することが求められた。

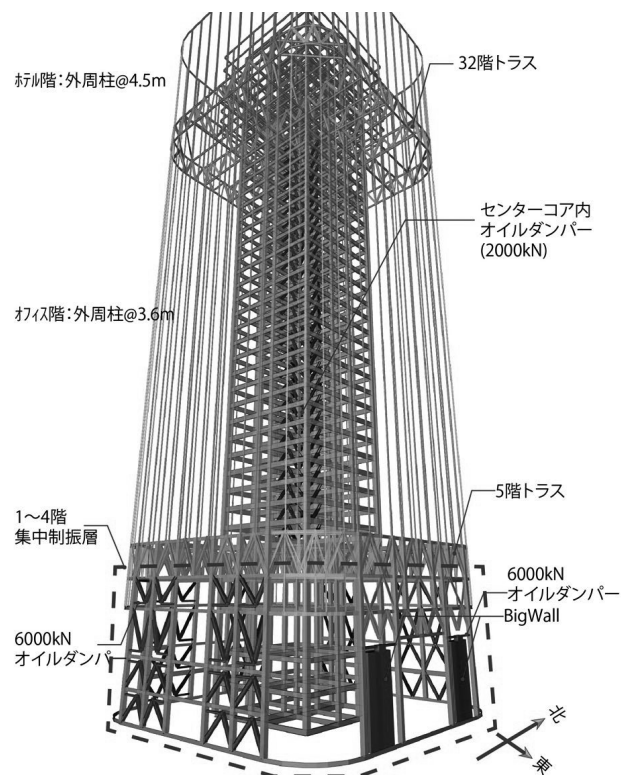
種々の検討の結果、低層部の外装が大きなレンガ壁面となることに着目し、壁面内に粘性ダンパーを集中配置した低層階集中制振構造が本建物に最適な構造システムであり、高い耐震性能を実現できると判断した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

建基法極稀地震に対し、ツインタワーで共通の設計目標（層間変形角 1/150 以下、部材は弾性範囲）とし、集中制振部分も同じ設計目標としている。

過去に例のない大規模な低層階集中制振構造を建築計画と整合して実現するため、6000kNの最大減衰力を発揮する新開発のオイルダンパーを採用している。

東面はピロティに面することを利用し、Big Wallと呼ぶ自立壁により、3層分の層間変形を利用した効率のよい制振架構を実現している。



架構パース